

市民に隠して建設された
長野県 東御市の

木質バイオマス発電所

木質バイオマス発電チェック市民会議



東御市羽毛山工業団地 清水建設・信州WP
木質バイオマス火力発電所 1990kw/h



はじまり

- 2018年11月 「清水建設(株)が1990kwのバイオマス発電所を建設」新聞報道で市民は計画を知る
- 2019年4月 「バイオマスって何？」と学習会を呼びかけ、青木氏の講演を聞く
- 5月 学習会参加者一同名で、市民説明会の開催を市に要望
- 6月 市は「地元には周知」「議会の承認」を理由に「説明会は開かない」と回答
- 7月 「市は全ての市民に説明するよう求める署名」を開始

～ 市会議員らが署名を妨害

木質バイオマス発電チェック市民会議の設立(8月)

- 9月 1300筆以上の署名を提出。羽毛山区は3人に1人が署名

* 工業団地のある羽毛山区は2012年秋、化学薬品工場の立地を断った。説明会に各戸1名出席した結果、薬品処理の排水や排煙を心配した声が多く出たためだが、市長は地元説明会を開催したため工業団地が売れなかったから「区民への説明会開催は慎重に扱った方が良いため、むやみに話をせずに進めたい」と発言していた。(2014年12月)

- 市長のこの発言記録を見た羽毛山区民は「そういうことだったのか」と怒りを募らせ、市が再度市民説明会の開催を拒否すると、建設反対署名を開始し、年末までに全世帯の92%もの反対署名を集めた。

羽毛山区に立つ 稼働反対の看板



不可解な記録

- 「2015年1月、地元3つの区の区長に事業概要を説明」と市の回答にあったが、情報開示では「記録は不存在」
- 2015年9月の議会への説明は「東京パワーテクノロジー(株)」。12月に清水建設(株)に変わったが記録はない。
- 清水建設に変わった2015年12月から2016年6月の清水建設の工業団地開発届けへの羽毛山区長の承諾印と署名を得るまでの半年間、市の商工観光課職員が頻繁に羽毛山区役員を呼んで説明。しかし記録ではトヨタを前面に出し清水建設(株)、木質バイオマス発電という企業名や事業概要はなく、「1-2番区画」と書かれている。
- 2016年の議会記録はなく、清水建設(株)になった説明もないまま、いきなり2017年9月「1-2番区画について、企業から国に正式な申請が受理されるまでは公にしてほしくないということで、今回全員協議会で」という担当課長の説明記録。企業側に立つ市の説明を、議員たちは、わかった、わかったと同意している。
- 議員には「市民に選ばれ、市民のための仕事をする」という認識はない。だから計画を知った市民が学習会を開き署名を始めると、妨害を始めた。この記録にも「清水建設」「木質バイオマス火力発電所」の文字は書かれてない。

WP建設中の 清水建設/信州WP の手前に トヨタL&F の入口の看板がある



FIT申請書類の 開示請求

- **2020年1月**、清水建設が2017年10月に経済産業省に提出したFIT申請書類一式の開示請求を行った。申請内容を確認するつもりだったが、開示された資料は、「**使用燃料**」の箇所が全て黒くスミ塗り（不開示）だった他、かなりの部分が不開示とされていた。
- 実は市からの開示では「使用燃料—**間伐材等由来の木質バイオマス**」と書かれていた。清水建設/信州ウッドパワーのHP等でも燃料は「東信地域の間伐材等」とあり、東御市もそのように説明している。
- 7月、経済産業大臣宛に**審査請求（不服申立）**。 先日、**審査会に諮問**（意見を聞く）したとの通知を受け取った。

市民の手で放射能の「リネン測定検査」を

- 7月、清水建設／信州ウッドパワーの木質バイオマス火力発電所は**稼働**を開始。建設反対を表明した羽毛山区の強い要望もあり、**市は試運転段階から独自に放射能検査を実施し、結果を市のHPで公表。**今後、目に見えない化学物質や放射能汚染をどう監視していくのか。
- **木質バイオマス発電チェック市民会議のリネンチーム**は昨年秋、「稼働前リネン測定検査」を実施。この秋には「**稼働後のリネン測定検査**」を実施する。もし稼働前より数値が上がれば、その理由は明らかだ。
- 市民の手で目に見えない放射能汚染を把握する「リネン測定検査」は市民の健康や環境を守る大きな武器になる。

稼働前 リネン測定



稼働前 リネン測定





ありがとうございました

2020.10.23